

## 会長挨拶

皆様、今日は・・・ご家族様お揃いで団欒のひと時を過すべき、本日日曜日に、ご参集くださいまして有難うございます。昨年11月にお話が出て以来、8ヶ月余にわたり、皆様方始め、関係団体の皆様にご指導を頂きながら、本日結成大会を迎えるに至りましたことに深く感謝申し上げます。

事の発端は昨年3月11日の東日本大震災までさかのぼります。発生直後より各地で自然発生的な支援活動がなされ、その秩序正しく、献身的、かつ勇敢な東北、岩手の方々の姿が、全国、全世界から称賛されたことに、失いかけていた日本人の誇りをそこに見たからであります。

茫然自失であったろう被災地の方々の立ち上がる姿や、自衛隊・警察・消防団の命がけの救援活動に眠りかけていた日本人としての矜持を揺り起こされたものでございました。思えば、近年の日本は「おかしい」・・・何かおかしい・・・

家族の絆を破壊するような社会構造を秘かに進めるごとき政治。行過ぎた政教分離による、日本文化の弱体化。公德心を捨て去る、行き過ぎた個人主義など、日本の国柄が、音を立てて崩れ行くような恐ろしいほどの現象に成すすべも無く、単に国の未来を想像し、子ども達に残すべき「ふるさと」は、との自責の念にかられながらも、それは政治家の問題だとし、考えることを避ける傍観者でいたわけであります。

目覚めは突然やってきました・・・被災地からの無言の問いかけです。いいのか日本人。成すべきことは無いのか。被災地の無念さに心を寄せるなら、今、何が出来るのか、一人ひとりが出来る事をやって呉れませんか・・・

日本人とは、本来、道義と公正を尊び、私よりも公を大切にする国民です。

なぜなら日本人は、世界最古のご皇室を心の中心におく、魂の絆で結ばれた民族だからです。日本人が、その思考を素直に取り戻すこと。

それがすなわち、日本が正常化するための第一歩なのでありませんか・・・と言う叫びでした。

気づきこそ大事なのです。平和な暮らしに甘んじている多くの人々に、国難と言う気づきを与えるスイッチが今こそ必要なのです。人々は、薄々感じながらも、それを真に受けようとせず「笑い」で自分を誤魔化して生きていると言っても過言では有りません。今、ここに日本会議岩手県本部が設立され、多くの同志の出会いに恵まれました。被災地の復興はもとより、その力や思いを「日本の再建に向けて」共に歩みたいと思います。本日、結成大会記念講演に「潮 匡人」先生が岩手まで来て下さいました。心から感謝申し上げます、挨拶に変えさせていただきます。

